

北海銷夏錄

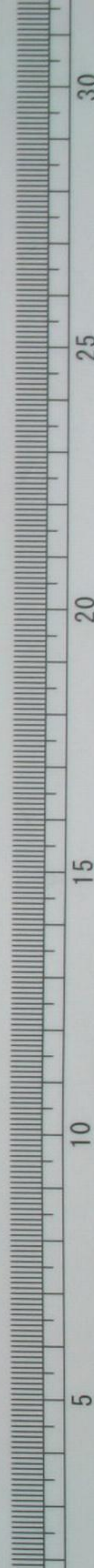
一

特別

14

1919

152





○意ぬ事あるをいふ事なきが徳助伊藤をいふ事なき  
 うゝか土前尾解見ことを期したる門を  
 開放す志をいふ事なきが徳助伊藤をいふ事なき  
 内務の室にありしと非報の終に徳助伊藤



ふね言をしるま。門ノ開放の結果ナキハ  
とをくつて獲く方々多し。もあんなつて  
も放つる上を獲く。あつて仕方なき  
併し。本まの本まをいふ。本まの  
の土前を貯し。あつてとんえづ。土前をぬ  
本まをいふ。戒めをいふ。あつて  
○流石をとり。本まの流し。あつて本まの  
と。れい。あつて流し。あつて本まの

本まをいふ。あつて本まの流し。あつて本まの  
山今。あつて本まの流し。あつて本まの  
捕と。あつて本まの流し。あつて本まの



ふね言としるま。門ノ開放の結果ナキハ  
とをくつて獲く方々多し。もあんなつて  
も放つる上を獲く。あつて仕方なき  
併し。本まの本まをいふ。本まの  
の土前を貯し。あつてとんえづ。土前をぬ  
本まをいふ。戒めをいふ。あつて  
○流石をとり。本まの流し。あつて本まの  
と。れい。あつて流し。あつて本まの  
本まをいふ。あつて本まの流し。あつて本まの  
山今。あつて本まの流し。あつて本まの  
捕と。あつて本まの流し。あつて本まの











わをぬきしるるもろし。不ふ此の彫刻と異  
しこまあろしや微跡しるるもろし。わをぬきし  
おろしるるもろし。中さ回へんて或も中さ  
ゴロボツクルの彫りもろし。わをぬきし  
此の彫りもろし。骨の彫りもろし。わをぬきし  
ひ合はすんはん無し。まをぬきし。わをぬきし  
と何んも彫りもろし。わをぬきし。わをぬきし  
何んの名もぬきし。わをぬきし。わをぬきし  
此の古碑もろし。わをぬきし。わをぬきし  
ゆらちし。わをぬきし。わをぬきし。わをぬきし  
を圓もろし。わをぬきし。わをぬきし。わをぬきし



























○幸のつ修るをまけは支那も我邦との如く  
 腐清を初めの如く用ふる味もあつた我  
 邦の如く異に於るいともあつた赤土  
 塩を混して清けのるさうひ塩菜とさ  
 ころ

○も亦出版のよもたけ用けた支那もさうさ  
 う甚だ不採のみ採ひあつて、さうもさ  
 らのさ自若も出版さうささ東まの、元  
 干のるを材料を取つて古紙を出版せし  
 我邦今りの改とさ言ふ月勢のあまのあ

東洋書局

●清國の書肆と出版

(公使館及び領事館報告に據る)

◎北京 重なる書肆は左の如し  
 古書鋪 肆雅堂 翰文齋  
 洋書鋪 博文齋 鴻文局  
 右の古書鋪と云へるは廣く唐宋元明等の古書及び  
 四書、五經、小説書等を賣買するものにして之を  
 外省より買ひ集め或は偽版を作りて販賣し四書  
 五經、其他の書に至りては大抵自店にて藏版す洋  
 書鋪は重に各地出版の新譯書を販賣するものにし  
 て他の書店と結約し新版のある毎に送り來るもの  
 なり而して書店相互の取引は古書鋪と洋書鋪とに  
 は殆んど行はれず又古書には同業間の取引上にも  
 掛直あるが故に賣買活潑ならず洋書鋪にても自  
 店が出版せずして他店のものを待ち居るが故に取  
 引至つて少し左れば著作者の多くは上海書店と結  
 約し北京の書店より出版するものなし其の此の如  
 きは洋式印刷術の發達せざると書店と新譯物の經  
 験なきが爲めなり版權は前述の如く古書鋪各自自  
 由に藏版するが故に如何なる書籍も隨意に製版す  
 ることを得る只官有のものには之を藏する能はず其  
 他各地の出版物を偽版せざるは洋式印刷術の不發

達と販路の廣からざるが故のみ官書局出版のもの  
 のは官局自ら之を讀者に賣り通常の書店にて暴  
 利を貪らんことを恐れて托することなし左れば書  
 店の購求せんとする時には知己の讀書人に托して  
 求むるを得れども割引の如きは一切なく從つて官  
 局と通常書店とは何等の關係を存せず  
 ◎滿洲 各地重なる書店は左の如し  
 文勝堂(牛莊) 四合堂(奉天) 永和堂(同上)  
 連陞堂(錦洲) 華文堂(同上) 文勝堂(蓋平)  
 以上の書鋪に於ては四書、五經の如き販路の多き  
 書籍は自ら版木を有して出版するものあり或は本  
 鋪に於て出版したるものを取次販賣するものあり  
 と雖も普通の書籍は概ね上海若くは北京より仕入  
 るゝなり往時は其の仕入たる書籍の代價を三、五、  
 八、十二月の四回に仕拂ふの習慣なりしも近來は  
 毎月末に於て精算するに至れり牛莊にては上海に  
 て洋銀一元にて仕入れたる書籍を一兩にて販賣す  
 るを常とするも此地の居民の多くは商業者ど勞働  
 者にして讀書人の數僅少なれば從て收入も少く書  
 肆は傍ら筆墨紙を鬻ぎて漸く維持し居るものゝ如  
 し奉天は文武官吏の居住するもの多く書籍の需用  
 は牛莊の比にあらざると雖も新書の販賣は皆無にし







をえしとええさるるも、おんまの、の管の  
ををひとさうとさうのさるるまうのと  
さうさうとさうとさう

○誰のちえ惚れとさうさう終い氣子  
いゝあさう人間の身體を評物を得し調子  
と取れ巧みさ出来とさうさうさうさうさう  
首頭とどんさう向人さうええんさうさうさうさう  
、細い頸さうさうとええんさうさうさうさうさう  
頭とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
今又大きいのさうさう、さうをさうさうさうさうさう  
やららららら頸ひ来れ大丈夫とええんさう

東  
林  
真  
堂

さうさうさうさう自由自在さう左花前なる運動の  
し得る様さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
ええさうのさめとさうさうさうさうさうさうさうさう  
の胸と身体さう様さうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさう二本のさうさうさうさうさうさうさうさう  
危げのさうのさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
も母腹印さう接持さうさうの股さうさう比較の  
不つさうさうさうさうさう人體の強んとさうさう  
ええさうさうさうの下部の細さうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さう











岩壁に谷を穿つるの回し、こゝにまよひてこゝを得  
ざる結果、~~……~~と云ふことなり

○我々の南北を横る西断し、関東関西の称あり  
こゝとく、之を堅くあつて、~~……~~表裏、~~……~~  
ト日本と稱する、自然の相違、~~……~~、~~……~~  
質の上より地質をみる、~~……~~、~~……~~  
中央合衆海、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
……、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
平洋波上に向つて、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
カ治るる、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~

東洋地誌

一、新地の中、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
……、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
の地、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
地盤、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
侵蝕、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
……、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
○……、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
……、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
……、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~  
……、~~……~~、~~……~~、~~……~~、~~……~~







（て）を得る。つれづれ、さういふさういふ、骨  
う折れ、怪しむ。赤井の若い（若）と懐記し、  
（た）あつた例のこと。笑つてその、  
秋濤の（手）柄と、さういふ、  
○ゆゑの、赤井の、  
ゆゑ、  
抱え、  
の、  
前、  
社、

○ゆゑの、赤井の、  
ゆゑ、  
抱え、  
の、  
前、  
社、

東洋雜記

ちと、  
ゆゑ、  
○西、  
ヒ、  
つ、  
あ、  
而、  
こ、  
の、  
の、  
の、  
の、

○西、  
ヒ、  
つ、  
あ、  
而、  
こ、  
の、  
の、  
の、  
の、















ぬちの... 義を... 女の... も...  
 能つ... を... せ... だ... アイヌ  
 確... エーバケエラ氏の...  
 アイヌ人及其伝説」と題し... 出版し  
 比書... 記... 強し如  
 ぬれ人... バケエラ夫人... 振撥  
 田... 出来ぬ、即ち  
 巴氏の所説を... である。

アイヌ語... 「Tugu」と...  
 此の轉訛... 而して...  
 の... (一) 世津 (二) 夜中 (三) 日の神 (四) 火

麻生原集

等の... 義... 此... フケカムイ

Huchik Kamui... 此... 又  
 ... フケ  
 ... 而して  
 ... 又  
 ... 又  
 ... 又  
 ... 又

○ 能... 義... 初... 而し







おはるまゝのしるしをいふまゝに  
おはるまゝのしるしをいふまゝに  
おはるまゝのしるしをいふまゝに  
おはるまゝのしるしをいふまゝに

又

著者をして平取村の清原とす  
其の初イナラを抄(ナ)とて  
其の下のみき禱とす  
我の義経よ汝のあつたはる我の妻酒  
を飲ふことをかゝるるあはれめ  
汝を出家せよと此の禱とす  
是れ又他の人此の禱を祈りて

東林院

前にも入りの酒の段  
をひきかへしはるはる  
をひきかへしはるはる  
をひきかへしはるはる

○此の段は内記の義経と異なり  
此の段は内記の義経と異なり  
此の段は内記の義経と異なり  
此の段は内記の義経と異なり























今の枚々の付振るるや枚振の事や金子さきも  
高の金をさきも事や英銀さきも枚を在つたのたう、  
志を清くし此を揚く轉したのむさきも金子も自身  
をせぬ来たへと望むたのサるるのた海を  
と對する由地人の觀念もさきもの想ひも  
やもしく、兎角以上の枚の事を望むこと  
来さうつたぬあるは余も志を果ささうつた  
らぬた海をさきも揚く事や過つたうさきも  
一ある年の事やある

阿婆言談

印の事や由は一と世絶した、二あること十一万の  
に、三あること十一万のたうたうたうたう  
す、四、排通して買入すあるは、五、まきくの  
品具や腹あわや圓を銀やあるは、六、まきくの  
七、二十一万のたうたうたうたうたうたう  
のたうたうたうたうたうたうたうたうたう  
ひあさうたうたうたうたうたうたうたうたう  
ふ、八、まきくのたうたうたうたうたうたうたう  
るつたうたうたうたうたうたうたうたうたう  
を、九、まきくのたうたうたうたうたうたうたう  
エ、十、柑目のたうたうたうたうたうたうたう  
起る



















胃腸の働きと消化の過程  
食物は口で咀嚼され、唾液と混ざり、食道を通り、胃に送られる。胃では胃酸と消化酵素によって、食物は分解される。その後、小腸で栄養分が吸収され、大腸で水分が吸収され、残りの残渣は排泄される。

消化管

消化管の働きと消化の過程  
食物は口で咀嚼され、唾液と混ざり、食道を通り、胃に送られる。胃では胃酸と消化酵素によって、食物は分解される。その後、小腸で栄養分が吸収され、大腸で水分が吸収され、残りの残渣は排泄される。











アト思ひつゝ脊骨を在さしと思入りある柳の  
樹と人の生命との因縁を言ふ事重き事あり  
ことなるべしあるアイヌの此指を貴りしを  
くつさしこころあり又古代に於て軍人の  
脊骨を切斷する事あるべし此の骨  
を之を物徳するも後命せざるべし  
此の骨脊骨を切らざる人の命を  
あるに非ざる行くことあり

アイヌ人の子供出まると時さす父或は  
父又も他の親族川のほとり行き新しき  
柳指を成す事ありおちゆくも鄭重なる

イナヲをまじり茶しく之をおと後其の  
寝床の傍に置き守護の守とん

かチエラーと此の指を叙し終るに文  
徳あり此柳指の事と昔に人  
の指を三日間の離れ柳の枝を用  
ひし事あり此指を貴りしと云  
へし

○此指はアイヌのアイヌ、エツ松、アカエツ  
松、シロメン松と津軽海峡を渡ると見  
南と北の二つあり此の指の樹  
木は西比利亜とアイヌの



れを揮大とを經て西に利五くして年以よ  
る事(三)三

○北あるの風を争ふを西に利五とよく似て居  
るといふ事(一)屯田兵の表の拵(三)もむの  
似て居るもめむと、西に利五又往つて人の流  
ひあつて、その事(一)もむの表(一)もむ  
ハ(一)西に利五に擲つたの事(一)もむ  
○札幌(一)の事(一)もむの人のことを(一)もむ  
あつても(一)もむの事(一)もむの事(一)もむ  
と(一)もむ

○(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事

西

ハ(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事  
あつても(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事  
か(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事  
漁師(一)の事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事  
利(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事  
を(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事  
あつても(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事  
又(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事  
あつても(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事  
る(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事  
あつても(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事  
あつても(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事(一)もむの事







まはあしとアハと伝ふ

如ん此を伝ふをすく人々之を真一其の口傳ふ  
りし伝ふ大まアハの動物崇拝の類を  
りと思ひ誤りたる人々此以下のことをも  
てんかたひ人種をジャリの人種として其え  
祀を犬を妻化したる如くと酋長たる生  
おせし者たることろく口傳ふお似たりと  
然んども余れを之と答へて云らんオハ  
ハハの口傳ふ伝ふ大ま此人種の動物崇  
拝の類を伝ふ事ニ此を伝ふア  
ハハの口傳ふ事と云ふこと日本人の説るる

東洋原典

勿論此の云ふべきを伝ふも傳ふるも毛皮の  
うけたるアハの物性を説く事何と  
せんハアハのえ紐を犬と云ふをば其も  
たのうけたる原因を了ぬるを得なく  
又此人種を毛皮と云ふをば其も一と云ふ  
欧米人やもアハの如くあるものあり  
多し其を以てアハのものも其も其も  
くべきことあり其も其も其も其も其も  
冷するに要する事あり

○此の如く十般の軍艦と十式般の如く  
記述艇と云ふは確證しんるが、おぼは



稀者の事を観ひき、個扱ふ多数の軍艦の  
おぼろ碇泊し、いひて日経しおめえ又宴を  
或るべきあるにありて、今まあるがま  
く不定をさるる井あを飲め料に船く軍  
をえそるがまのここと十般の軍艦  
う入候し、いんいつのめおまの飲め  
を要するにあつたは利を重し費用を  
得らるるをいひき、おぼろをあるに得  
難いとしを傳へて日経し、いんいつの  
うらうらぬのけりてあまの……あそ  
と港に船を船し、飲めありて送らるた

東海道

えあるの設備を要する、多くの軍艦が船  
船を扱ひし港、あるを築するべきと  
う、いんいつのけりてあまの……あそ  
或るにありてあり、

○日中露海軍の強弱を論ずるといふ  
しい論論の起るに、いんいつのけりてあまの  
得るに便ありて地を必するに要せると  
かきりて、いんいつの決法にひあるの、軍  
艦七流あるに、いんいつの石炭のきけんハ呼  
ゆの出来する、飲めありていんいつの  
七艦負の余りを保つこと、いんいつの出来する







他の麦酒を比ぶ其の後俤うさくして二丈  
ふあいのさマルツ Malts をあきさるる漢傳  
らあるすや、マルツを日本酒のモト  
らさるるものありて、原料一之獨逸より  
來る、即ちゴールデン、メロンをいふ麦が  
この原料よりあるて、北海及び之を  
酒を造る供佐するは、深山の耕作する  
此のまじりを外國より輸入して用へると  
云ふ事也

此のうらたるとは製麦の中心に於ても附屬

東洋製麦

してその中心を以てあつて漸く創め  
るものあり、文政の身振立功定に依  
りて五千餘石の備へられたるものと  
いふこと

麦酒を造るに於ては、酒を醸ししむるに  
成るるもの酒を醸ししむるに、  
の手續の節重き一、  
此清酒を造るに、  
一、  
飲食物料を造るに、  
入行る重面を造るに、  
此酒を造るに、











### 第五博覽會の成績

第五回内閣勸業博覽會は別項大阪特電の如く十分の満足を以て其の事業を終結したり開場以來の景況は本紙が大阪博覽會特電によりて報道したる所にして開場百五十有餘日の間最初より最後まで一日も欠かさず此の特電を掲載したるは本紙の特別なる施設と經營とを了解せられたるべきか故に百五十有餘日間の本紙特電を綜合し第五回内閣勸業博覽會の成績を左に略述す

第五回内閣勸業博覽會は「博覽」と云ふ文字通の意義に於て異常の大成功をなしたりと云はざるべからず當初に於て百五十日間三百萬の觀覽人を豫算したるものが本會場に於て四百三十五萬餘人、堺水族館に於て九十五萬四千餘人、合計五百三十萬五千二百〇九人毎日平均三萬五千三百三十四人の多數に達したることは實に異常の成功と云はざるべからず更に本會場及び水族館を通じ觀覽人員を月別とすれば左の如し

三月	八八五、六二二	六月	八一七、五七七
四月	一、二九九、九二二	七月	九八九、七七一
五月	一、三二二、三二六	合計	五、三〇五、二〇九

此の五百三十餘萬人中に一萬九千九百餘の歐米人、五千九百餘の清韓人を數へ得ることも亦た第五回博覽會の前會に比して誇り得べき成功の一たらずんばならずされば觀覽人に關する事務の全部を請負ひたる大阪協賛會は其の措置に關して屢々非難を招き此の非難は不幸にして大概理由あるものなりしと雖も而も常に種々の方策を案出し實行して五百餘萬の觀覽人を吸集し得たるの成功は人々の稱讚し感謝せざるべからざる所にして觀覽人に關しての成功は曠て博覽會の第一成功たるなり

觀覽に關する設備の成功として更に特記すべきは夜間開場なり夜間開場は第五回博覽會に於ける特別設備の重なるものにして前四回の夢想だもせざりし所なるのみならず海軍のイルミネーションを除き裝飾の爲め娯樂の爲め實益の爲めに電燈を大仕掛けに使用したる最初の設備と云ふを妨げずされば其の設備に於て不満足の點少なからざりしは止むを得ざる次第にして而も其の結果より見れば設備の缺點を忘れしむるの成功を示したりと云ふべし即ち四月以降の夜間開場日數及び觀覽人員左の如し

本會場	開場日數	觀覽人員
水族館	六十一回	五四五、五〇八
	八十四回	一一五、一八〇

夜間開場により特に吸集したる人員六十七萬六千八百八十八にして六十餘萬中の多數は今尚イルミネーションの美觀壯觀を眼中に描き出すあらむ

第五回勸業博覽會の設備は總ての點に於て前四回の比にあらざるとは既に屢々繰返されたり近時邦人の外國に博覽會を觀たるもの多く此等の觀覽者は重大なる缺點を指摘し得たりと雖も之を内閣勸業博覽會從來の成績に考へ且内閣産業の現狀に鑑すれば公平なる觀察者は會場の設備に於ても出品の選擇に於ても陳列に於ても第五回博覽會の顯著なる進歩を認識せざらんと欲するも能はざりしなり設備其他の要點に關し第一回以來の成績を比較すれば左の如し

第一回 第二回 第三回 第四回 第五回

敷地面積	12,000	18,000	20,000	30,000	100,000
各館面積	3,000	4,000	4,000	5,000	16,000
開會月日	八月廿三日	三月一日	四月一日	四月一日	三月一日
閉會月日	七月廿三日	六月廿三日	七月廿一日	七月廿一日	七月廿一日
開場日數	101	133	133	133	133
觀覽人員	100,000	210,000	101,000	115,000	5,305,209
出品點數	10,000	10,100	10,100	10,100	10,100
發賣點數	10,000	10,100	10,100	10,100	10,100

第五回勸業博覽會は「博覽」の意義に於て成功したるが如く「勸業」の意義に於ても著しき成功を示したること前述の如し其の成功の最も大なるは參考館及び外國館なり即ち外國の出品者は實に十四ヶ國の多きに亘り參考館は其の出品を以てして其の陳列を以てしても貴重なる智識と教訓を出品者及び一般觀覽人に與へたり若し夫れ加奈太館の如きは規模大ならざりしも優に館内の一異彩たり此他外人の私費を以て建てたる特別館何れも我が當業者を刺激し啓發したること決して少くならず第五回博覽會の尊稱は容易に許すべからずと雖も一方に於て外國の出品を吸集して我が産業を啓發し一方に於て外國の觀覽人を吸集して我が産業を世界に吹聴し得たるは「勸業」の意義に於ける著大の成功ならずや

内國の出品に於ても近時工業界の一要件たる冷蔵庫の特に設けらるゝあり此工業館に於ける造兵製鐵の出品の如き通運館に於ける各種の出品の如き前回は於て求めて得べからざりし大規模の出品を見たるは頗る人意を強ふるに足るものありされば會場に風景を缺き、設備に趣味を缺き、陳列に條理を缺き、出品に代表的選擇を缺きたる等の遺憾固より少なからずと雖も第五回博覽會は著大の成功を以て我が産業現時の到着點を總括し以て將來の出發點を指示したるなり

儀式も亦た博覽會の重要な部分にして第五回博覽會が其の儀式中の最大なる儀式 即ち開場式に於て 陛下の臨幸を仰ぎ無上の成功を感謝し得たることは當時本紙の特電が遺憾なく詳報し得たる所なるを以て茲に繰返さす

### 大阪博覽會

三月一日開會以來百五十三日の會期を無事經過し静かに閉されたる會場は午前八時閉會式の爲に開かれ三百餘名の參列者を迎へたり參列者の重なるは瑞典、威國、總領事、米、佛、葡、白各國領事、高崎大阪、山田靜岡、河野奈良の三知事、加太新院、川村地方裁判所長、長谷川造船局長、和歌山、兵庫兩書記官、大阪、三重兩參事官、鶴原大阪、佐藤和歌山兩市長、在阪衆議員議員吉田顯三、金岡徳太郎以下三名、大阪市府會議員、松

### 閉會式

(大阪特發八月一日午後)







以下全て  
白紙



